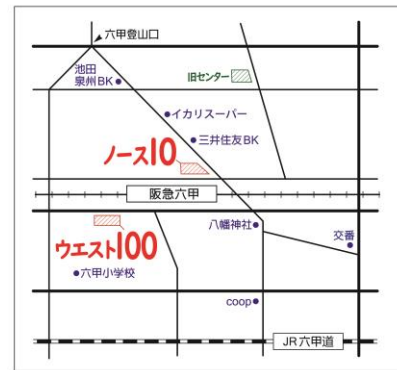


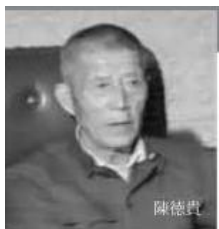
神戸・南京をむすぶ会 12月集会 ビデオ上映&講演の夕べ

84年前の1937年12月13日、南京を占領した日本軍は暴虐の限りを尽くしました。煤炭港での虐殺事件はそのひとつです。ノーモア南京の会（東京）が煤炭港での生還者とその事件にかかわった元日本軍兵士の証言を立体的に構成したビデオを製作しました。今年の南京集会ではそのビデオを上映し、その後南京フィールドワークで訪れた煤炭港の今についてご報告させていただきます。



- 日時 2021年12月9日（木）午後6時30分～8時30分
- 会場 神戸学生青年センター「ウエスト100」（阪急六甲駅西100M）
〒657-0051 神戸市灘区八幡町4-9-22
TEL 078-891-3018 FAX 078-891-3019
- 参加費 1000円

●①ビデオ上映 「南京・煤炭港の虐殺一生還者の証言・元日本兵の証言」（60分）



南京陥落（1937年12月13日）の日から約2か月間、南京北部の長江沿岸を初めとした市内外各所で、日本軍は住民や敗走する中国兵、避難民を殺害する大量虐殺事件を起こしました。煤炭港は貨物連絡船棧橋や石炭の荷役施設を備えた鉄道ターミナル駅があった所ですが、ここでも捕虜や一般市民の大規模な「殺処分」が多発しました。陳徳貴さん（当時20才）と潘開明（15才）さんは、南京陥落直後に煤炭港で起きた機関銃による大規模処刑から奇跡的に生還した“幸存者”です。彼らは、連行、倉庫での拘禁、機関銃による処刑、そして文字通りの生き地獄からの生還を、詳細に証言しています。



これらの虐殺事件を起こした日本軍部隊を特定することは困難ですが、下関地区にいち早く突入した上海派遣軍の京都第16師団の第33連隊（津）と第38連隊（奈良）に所属する部隊が、主要な役割を果たしたことは確実です。これらの部隊に従軍した5人の元日本軍兵士から聞き取りした証言の映像は、長江沿岸で多数の捕虜や一般人を拘束し、機関銃掃射により処刑した事実を、実行犯として証言しています。これらの映像は、被害と加害を突き合わせ、煤炭港虐殺事件を立体的に捉えることを願った試みです。また、軍の記録、中島今朝吾第16師団長の日記、佐々木到一第30旅団長私記などの戦史資料とも関連付けて、なぜ日本軍部隊が凶悪な殺人集団と化したのかを考えます。

●② 講演「煤炭港虐殺事件と長江沿岸の今」 宮内陽子さん（神戸・南京をむすぶ会代表）

※宮内陽子さんの著書『日中戦争への旅—加害の歴史・被害の歴史：南京／海南島／香港／台湾／無錫・上海／広州／雲南／徐州・台兒莊／岳陽・廠窖・常德・長沙／桂林』（2019.12、合同出版、1600円+税）



主催：神戸・南京をむすぶ会

（代表：宮内陽子、副代表：門永秀次、林伯耀、事務局長：飛田雄一）
〒657-0051 神戸市灘区八幡町4-9-22 神戸学生青年センター内/
TEL 078-891-3018 FAX 078-891-3019/
ホームページ <https://ksyc.jp/nankin/> e-mail hida@ksyc.jp

後援:神戸学生青年センター